２０２５年度　学校経営方針

成田高等学校付属小学校

Ⅰ　学校教育目標

【建学の理念】

成田高等学校は、成田山の宗教的使命の達成と、地方文化の向上のために、創設された。この理念に基づいて、本校は、高等学校、付属中学校、付属小学校の教育の一貫性を重視しつつ、広く優秀な生徒を募集し、文武両道に励むことを通して、社会に貢献する人材を育成する。

↓

【学校教育目標】

知・徳・体のバランスがとれた児童の育成

～児童一人一人が輝くために～

↓

【五つの努力目標】

１．挨拶する　２．正装する　３．勉強する　４．運動する　５．掃除する

↓

【めざす児童の姿】

１．基本的な学習習慣を身に付けた子
　・正しい姿勢で話し手の目を見て、話を最後まで聴く。
　・自分から進んで、学習に取り組む。
２．感性が豊かな子（表現力・想像力が豊か）
　・周りの人と、上手にコミュニケーションがとれる。
　・五感を使って、好奇心や探求心を持って取り組める。
３．思いやりのある子
　・相手の気持ちを考えた言動がとれる。
４．心身共に健康でたくましい子
　・元気に、遊びや運動をする子
　・困難に直面しても対応できるポジティブな心の強さを持つ。
５．善悪の判断ができ、きまりを守る子

↓

【めざす学校の姿】	【めざす教職員の姿】
①子どもが明るく輝く学校 ・個を育てるとともに、豊かな人間関係をつくり、一人一人を認め合う学校 ②楽しく、安全安心な学校 ・いつも笑顔がいっぱいで、みんなと仲良く助け合える楽しい学校 ・健康・安全管理の徹底を図る学校 ③確かな学力を向上させる学校 ・基礎学力の定着を図り、幅広い知識と応用力を身に付けさせる学校 ④地域に認められ、魅力を感じてもらえる学校 ・礼儀正しく、社会ルールやマナーを守ることができ、地域や家庭との連携を図る学校	・笑顔の素敵な教職員 ・子どもを愛し、子どもの良さを引き出し伸ばす教職員 ・楽しくわかる授業を心がけ、自己研鑽に励む教職員 ・人間性が豊かで、子どもから信頼される教職員 ・子ども、保護者、地域の人々から親しまれる教職員

Ⅱ　今年度の重点項目

（１）学級経営の充実

学級経営が学校運営の基盤である。**基本的な生活習慣**や**学習習慣の確**立、**有効な友達関係の構築**等、学級で確実に身に付けさせることが、目指す児童の姿の具現化への近道である。

・２人担任制の継続・・・便宜上、「担任」「副担任」の名称を残すが、２人が対等の立場で、**協同**して学級経営にあたる。

・学年部会の充実・・・・各学年部会において、**情報共有と共通理解を図り**、学年部会が一体となって児童の指導にあたる。

・学級経営を通して、教職員も児童と共に学び成長していく（資質・力量の向上）

⇒児童一人一人の個性が尊重され、生かされ、充実した学校生活を送れるように支援する。

（２）『５つの努力目標』の徹底

「５つの努力目標」は、児童が身に付けるべき望ましい姿を、短い言葉で端的に言い表しているものであり、学校生活の基盤となるものである。全教職員の共通理解のもと、指導の徹底を図る。

＊家庭教育との連携を図る。

（３）歌声の響く学校に

≪歌（合唱）に取り組む意義≫

・協調性や仲間意識を養う。　　**・幸福感や満足感が高まり、精神の安定化につながる。**

・脳細胞の活性化を促進させる　　**・自己表現力の向上につながる。**

葉牡丹祭への取り組み以外にも、日常的に歌を歌う機会を設けていく。（各学級で・音楽の授業で）

Ⅲ教育課程の編成

１．基本方針

教育課程の編成は，学校の教育目標を具現化し，実践するすべての場を構成するものであり，学校としての主体性や独自性，さらには責任を問われるものである。そのためにも，編成→実践→評価→改善といったサイクルを十分に活性化させる必要がある。

（１）私立学校の立場から，法令及び学習指導要領に基づきながらも、『建学の理念』を達成するために有効な教育課程を編成する。

（２）人間として調和のとれた児童の育成を目指し，地域や学校の実態及び児童の心身の発達段階と特性を十分に考慮し，創意工夫を加え，特色ある教育課程を編成する。

（３）学校教育目標の達成を目指して，その具現を図るために，重点目標や指導内容，指導方法に工夫のある教育課程を編成する。

（４）各教科，道徳，特別活動，総合学習等の全教育活動において，「生きる力」を育てる教育課程を編成する。

（５）児童の心身の発達段階や特性を踏まえた活動がさらに助長されるように，家庭や地域との連携を深め，開かれた学校づくりを目指した教育課程を編成する。

（６）部活動の外部機関（地域）への移行、教職員の働き方の改善等、社会的な課題に対して、本校としてできうる対応を検討し、教育課程編成に生かしていく。

２．学力向上へ向けた取り組み

基礎基本の定着と、入試に対応できる「発展的な学力」を身に付けさせるために、以下の取り組みを実施する。

①『朝活の時間』として１５分枠を設定し、「朝読タイム」「漢字タイム」「計算タイム」を行う。「漢字タイム」「計算タイム」では、ドリル学習や小テストを行い、基礎学力の定着を図る。
「朝の読書」を利用して、保護者による読み聞かせボランティアを実施する。

②算数授業における TT 指導、少人数指導を充実させ、児童個々にあったきめ細やかな指導を展開し、学力の向上を図る。
≪１～４年≫TT 指導・・・１クラスを２名の教員で指導
≪５～６年≫少人数指導（児童選択による習熟度別）
・・・１クラスを２グループに分け、少人数で指導

③５・６年の英語授業にて、少人数指導（児童選択による習熟度別）を導入し、児童のレベルや関心意欲に応じた学習を展開する。少人数にすることで、英語をアウトプットする時間を増やしていく。

④デジタル教科書や iPad などの ICT 機器を有効に活用し、豊かな学びを保障する。

⑤５・６年生を毎週木曜日７時間授業として、入試学力の育成を目的とした「学力向上講座」を実施する。国語・算数・社会・理科の４教科を対象とする。

⑥『家庭学習の手引き』を配布し、家庭学習（自学）を励行する。家庭学習点検週間を前後期に１回設定する。

⑦夏季休業の８月下旬に、「夏季特別登校日」（４時間）を２日間設ける。

⑧水曜日の 5・6 校時を、「高学年総合」として位置付け、４～６年生の児童の共同学習を展開する。児童の自主的・自発的な学習活動を大切にしていく。

３．その他

（１）日課表は、便宜上年間通して同じものを使用するが、指導時数が３５週（１年は３４週）で割り切れない教科が多いため、振替計画を作成し、授業時数の確実な達成を図る。

（２）各教科領域間で過不足が生じてくるので，週案等で計画的に調整していく。

（３）総合的な学習の時間は，日課上に便宜上固定するが，まとめ取りが可能なように計画を立てる。

（４）付属校（小・中・高１２年間の一貫教育）ならではの教育活動として、以下の取り組みを行う。

①成田高校・付属中学校職員による「出前授業」の実施（５・６年生）

②付属中授業参観（６学年）

③総合学習の一環として、付属中生へのインタビュー活動（６年生）

④卒業生との交流会（６年生）

⑤教職を希望する成田高校３年生の小学校体験受け入れ（全学年）

⑥成田高校・付属中学校の施設の利用

運動会・運動会練習・なかよし集会・強健マラソン記録会・父母の会行事（親子学習会）